

日常の中で見つけた宝物

熊野市立木本中学校3年

喜田 心美

私は今年、中学三年生になりました。「今は」仲のいい友達と毎日とても楽しく学校生活を送っています。

皆さんは、「友達」とはどのような人だと考えていますか。私は、一緒にいると楽しく気楽で、私の学校生活を彩ってくれるとても大切な存在だと考えています。

私の中学校では「友達とはどんな人のことを言うのか」というテーマで考える授業がありました。それぞれ自分が思う友達とはどういうものかを考え、意見を出し合いました。一緒にいて楽しいと感じる人やお互いに注意しあえる人などたくさん意見が出ました。このようなみんなの意見を聞いて、私は共通して感じたことがありました。それは、誰にとっても友達という存在は本当に特別で、かけがえのない大切な人なのということです。もちろん私にとってもそうでした。

かつて私は、中学二年生の時に友達との関係で悩んだことがありました。自分の気持ちに正直に行動する友達に対し、なぜ私の話を聞いてくれないのか、私ばかり我慢をしなければならないのかという思いを抱きました。大切な存在であったはずの友達に違和感を覚え、付き合うのも考えるのもしんどさを感じるようになりました。また、そんな風に感じている自分にとっても悩みました。この時は大好きな絵を描くことも、好きな授業ですら楽しいと思えず、何事にも身が入りませんでした。今まで行くのが楽しみで仕方なかった学校も、行くのもとてもつらくなりました。

今振り返ると、この時の私は周りが見えず大切なものを見失い、自分勝手に独りぼっちだと思い込んでいました。いつも気にかけてくれて話を聞いてくれる友達や、つらいことがあったときに笑わせてくれる友達もいたのに、このことさえも忘れて、「味方をしてくれる人はいない」と思い勝手に一人になった気でいました。

私は、「友達」とはいつも一緒に行動して、どんな時も助け合える人のことをいうのだと思っていました。一緒に手をつないで過ごすのが友達だと思っていた私は、考えも感じ方もみんなと同じだと思っていました。

そんな私は、先生や親に「いろんな考えや感じ方がある」「相手は自分が思っているようなことを考えているとは限らない」などとアドバイスをもらいました。しかし、それに対して、頭ではわかっているのに心が追いつかず、受け入れられませんでした。ささいなことなのに大きくとらえて、自分を追い詰めていました。この時はとてもつらかったです。

しかし、私はこの出来事をきっかけとして、友達に対して覚える違和感について学校であった講演会や本を読みながら考えました。そして、自分自身を自分で認められておらず、追い込んでいることに気が付きました。まず、自分が大切な存在であるということを少しずつ認められるようになると、友達と自分との「違い」に対して向き合えるようになりました。違和感を覚えていることで自分を追い込んでいましたが、この違和感こそがその子と私の違いを認め合う気付きの第一歩だったのです。この気付きをきっかけに、心のどこかで感じていたもやもやも晴れました。「友達」は、ただ一緒に手をつないでいるわけでもない、学校で話すことが少なくても、お互いの違いを認め合い、何気ない日常の中でいいな、楽しいなと思いながら一緒に笑いあえる存在だと気が付きました。

それと同時に、自分が嫌だと感じることを相手にきちんと伝えることはとても大切だと思います。自分の意見をまっすぐに伝えることは違いを認め合う第一歩だと思うからです。もし、それが原因で喧嘩をしてもきっと仲直りできると思います。私は、このことに気付いてから暗かった心に光が差しこんだように、「違和感を覚えることは普通だ。みんなそれぞれが違うからこそ仲間と過ごすことは面白い。だから毎日が楽しくなる。」という明るい考えに変わりました。これからも、今まで以上に私の周りにはいる大好きな友達を大切にしていこうと思います。きっと明日も楽しい日になる！